

カンファレンスルームといろいろな出会い

疋田 裕美子

今年で任務終了ということで、最後に和顔愛語へ掲載させて頂くお話を頂いた時、「難しい文章ではなく学生さんに向けた普段の言葉を」と先生から言って頂きました。つきましては、この場をお借りして学生の皆さんへささやかなメッセージを綴りたいと思います。

あの笑顔！こう言葉にただけでもう既に涙が溢れそうです。私にとっては、学生さんの一人ひとりが本当に可愛らしい、愛おしい、妹と弟たちでした。毎日顔を合わせる訳でもなく、カンファレンスルームの扉が開けば挨拶をし、目が合えば他愛もない言葉を掛け合い、傍に来てくれればいろんな会話をする。そんな些細な日々でしたが、この場所は皆と自然体で接することの出来る唯一の架け橋のようなもので、確かな絆が生まれた空間だったと思います。実際この場があったからこそ短期間ながらも皆と少しずつ仲良くなり、距離が縮まりました。短大生活は本当にあっという間で、仲良くなったと思ったらすぐに卒業、という状態でしたが、それでも皆が普通に仲良くしてくれることが私は本当に嬉しかったのです。

私だけではなく学生さん同士もそうだと思います。クラス関係なく幼児教育科の学生全員が一体となれる場。初めは名前も知らない相手だったはずが、いつの間にか軽い挨拶を交わすようになり、次に会った時には顔見知りになっている。そしてそのうち胸中までも話す関係となり、本当の友だちとなっていきました。そんな風に短期間で友だちの輪が広がるのはどれだけ有り難いことでしょう。同じ年に入学した仲間たちと、たったの2年間だけでも同じ場所で同じ活動を共にし、巣立ってゆく…カンファレン

スルームはそんな貴重な「出会い」を更に深めてくれるような空間でした。

皆が仲良くしている姿を目にしながら、まるで自分も学生時代が再び戻ってきたかのような感覚となり、ウキウキしていました。毎日、若いきょうだいたちからたくさんの刺激や勇気をもらいました。小さな子どもたちとはまた違った得体の知れない可愛らしさ。最初はこの妙な感じに慣れず、子どもでも大人でもない学生さんたちと一体どのように接したら良いのかと迷うこともありました。まだ自分の立場もよく理解出来ていない時のことです。私は先輩で皆よりも先にいろんな経験は積んで来たものの、そんな経歴などほとんど意味がありません。知らない人がいきなり目の前に現れて「学習アドバイザーです。仲良くしましょう！」と自己紹介をしたところで、誰がそばに来てくれるのでしょうか。私でも近づきづらいわ！と自問自答しながら過ごしていました。私自身は、せめて皆と笑顔で挨拶することを心掛けていましたが、ほぼ全員の第一印象が「怖かった」…何故なのだろう。下手な自己紹介のせいなのか？空回りほどのこの馴れ馴れしさがいけないのか？それとも顔？目付き??だったらもっとニコニコ…どころかヘラヘラしとけばいいのかなあ！

いえ違うのですよね。最初は誰でも知らない相手をいきなり自分の領域へ受け入れることは不可能です。小さな子どもだって警戒します。しかし子どもとは遊びを通じて徐々に仲良くなれるものですが、大学生の皆とはそうはいきません。何もかも敏感に察知しときながら、子どもほど露骨にそれを出さずして相手の様子をうかがうチャラリズムな年頃。こちらの出方次第で

は全く心開いてくれそうにない大学生さんたち。無関心ほど恐ろしいものはないですよ。

しかしながら、私の余計な不安視は反って大変失礼なほど、皆それぞれのペースで接してくれました。本当に感謝しています。やっぱりお互いが意気投合するタイミングが合わないところからのアクションだけでは通じないのですよね。皆それぞれにいろんな感情があります。言葉ひとつで大きな影響を受けることもあります。もちろん私もです。時には（あの言葉掛けは失敗したなあ）と反省する出来事もありました。（敏感な年頃だから気を付けてあげないと！）と自責の念に駆られる節もありました。だけど、結局はここも人間同士の付き合いなのです。先生と学生、友だち同士、相手の年齢云々関係なく、やはり好きなものは好きだし、苦手なものは苦手なのです。万人共通で好きとか有り得ません。たまたま私のような人間がこの場所に来て、私の出来得る限りでの愛情表現でもって皆と接し、学生さん側もたまたま私のことを許容範囲の中に受け入れてくれる人は受け入れてくれて、ものすごい仲良くなるケースもある、ということです。これって友だちづくりと同じパターンですよ。「あの人、気が合うな」という感情が仲良しの始まりなのだと思います。ただし私の場合は皆よりも少しだけ（！）年齢が上な分、許容範囲もむしろ全部カモン♥というぐらいに広々ですので、傍に来てくれればくれるほど仲良しになれる訳でありまして。欲を言えば、もっと早く傍に来て？という感じです。回りくどい説明をしても意味不明ですね。要は、皆のことが大好き！という結論に至るのです。

今では皆が本当に可愛くて可愛くて、可愛らしい顔で私のことを親しみ込めて呼んでくれることがどれだけ嬉しくて胸に響いていたか皆は知らないと思うけど、ただただ皆に「ありがとう」と感謝する毎日でした。ほんと、いつも考えたくなくても考えてしまうのが今のこの時間のことです。実際のところ毎日のようにこの別れの時のことを考えては一人で泣いていました。立場上このような拙いことを申し上げるの

は相応しくないのですが、正直な気持ちを述べると、今はもう毎日泣いているのが事実です。一体このさみしさは何なんだろう・・・自分でも不思議なぐらい胸がつかえます。普段は毅然としたクールな態度をとっているのに、泣き虫と知って驚く学生さんも居るかもしれません。いえ、嘘をつきました。仲良しの学生さんたちには本来のさみしがり屋な性質が普段から明るみに出ており、後半は特に涙腺が緩みっぱなしでしたので、逆に笑われておりました。ただ人間だから。泣くも笑うもおさえきれない感情ですよ。

今はただ、言葉にできない思いをぐっと噛みしめるような気持ちです。出会いと別れはセットで、楽しい時間はひと時の夢。学生さんたちと仲良くなればなるほど離れるのはやはりつらいもので毎回全く慣れることはありません。しかし新たな出発、門出は涙をこらえて笑顔で見送るべきであり、自身にそう言い聞かせています。だから今回の最後の謝恩会は絶対に泣かないと皆に誓いました。

今年度の2年生さんたちと一緒にカンファレンスルームを去ります。最後の授業も終わりました。もう誰も居ない部屋で一人、皆の顔を思い出しながらこの文章を書いています。皆との一瞬一瞬が大切でした。毎日普通に座っていた赤い椅子にももう座らないのかと、何とも言い難い思いです。

途中でお別れという形になってしまった1年生さんたち。短い間だったけど、一緒に手遊びしてくれてありがとう。みんなの笑顔ももちろん忘れないよ。

今年一緒に卒業する2年生のみんな。これからは立ち止まることがあっても、私はいつでも背中を押し続けるから。

今までの卒業生のみんなも。体に気を付けて。またいつかどこかで逢おう。

これは全員に共通して、いつも通りの言葉で。愛してるよ！

みんな比治山大学短期大学部幼児教育科で本当に良かったね。この2年間で学んだこと、手に入れたことはすべて自分の糧。胸を張って突

き進んで行ってください。

これまでの出会いはすべて儂い「奇跡」です。本当にありがとう。いつまでも私は皆の味方であり、姉です。そう居させてくださいね。

最後に、お世話になりました先生方へ…私はこの度二度目の卒業を迎えます。可愛い後輩たちと同じ空間にて再びご挨拶を述べられますことを、今、大変幸せに感じております。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

そして私にこのような素敵な出会いの場を与えてくださり、ありがとうございました。

皆様に、心より御礼申し上げます。

